これからの地域医療を見つめて…町家の人情・風情を感じる診療所

『おめさん、なじらねぇ。』

注：『あなた、最近具合はどう？』
『元気ですか？』
『変わりはないですか？』
などを称した新潟の方言です

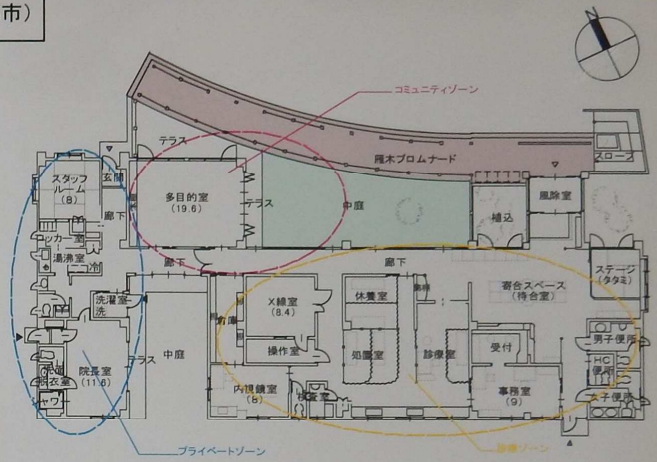
平成13年度　第１１回建築作品最優秀賞　(有)三善建築設計事務所（新潟市）

アプローチから見る全体的な外観ファサードは、町家の要素を取り込み提案した。
建物の左右にある大きな切り妻屋根は、内部空間の豊かな広がりと共に新しいスタイルの町家の外観ファサードとして捉えた。ところどころに張られた杉板の模様りが景観に溶け込む。玄関アプローチの丸窓は「野鳥の巣箱」である。巣箱は鳥たちが安心して羽を休める場所である。
人もまた、ストレスや病気によって身体と心を休めにこの巣箱を訪れる。病気の予防、病後のケア、地域の人々のコミュニケーションスペースとして、人々は安心してこの巣箱の丸窓から入り込み、心と身体を開放するのである。
そこにつながる緩やかな曲線のキャノピーは、独立型の雁木をイメージしている。町に残る伝統的な雁木の要素を独立させ、連続性を持たせた「雁木プロムナード」として提案した。
この雁木プロムナードでは、患者さんたちの待合のコミュニティスペースとしての役割も担う。全体の平面計画としては、診療スペースとこの雁木プロムナードであるキャノピーによって中庭を形成させた。この中庭は、「光・風・樹木の緑・そして、やすらぎ」を運んでくれる。逆にそれは、患者のプライバシーを外部から守ってくれる空間でもある。

中庭を一体として提案した多目的室は、様々な場面を想定した。例えば、そこは子供たちの遊び場であり、小さな図書館である。そして、時には町内会の人々の会合の場であり、お年寄りのストレッチ講座の講義室でもある。夏祭りの日、そこは中庭と共に開放され、お祭り広場として人々の笑顔を生み出すのである。
この診療所は、これからの地域医療におけるひとつの提案である。
単に、病気を治す診療所から、地域の人々のコミュニケーションスペースとして、開かれた空間を持つ診療所。さらに、時代の変化に伴ない大きく変化していく町の景観に対して、ただ昔を懐かしく想うだけでなく、その要素の伝統的なエレメント、そして内部空間の使われ方を時代の中に取り組み、古い建物を保全して残す手法とは違う形で、街並み形成の一助になるべく提案し、実践したものである。

設計趣旨

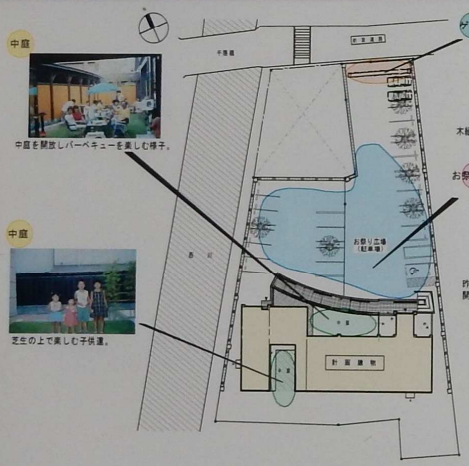
建設地である西川町は、曽根の代官所を中心として古くから栄えた町である。街道の南に位置する一番町から九番町まで、町の両側に街並みが形成されている。点在する古い町家の中に、切り妻の妻入り屋根を今なお見つけることができる。さらに、落とし込み式の雁木を持つ町家も少なくない。
この診療所の計画にあたり、地域の人々に親しみやすさ、懐かしさを感じてもらいながら、町の地域医療のシンボル的存在となるように考え、計画を行った。



西川町の現状の街並み

寄合スペース

待合室のもうひとつの使われ方として、寄合空間を提案
タタミスペースをステージに見立て、講演会を行ったり、寄席を企画したり…いろいろな使われ方を想定した



外観

夕方になると、内部のやさしいあかりが、地域の人々をあたたかく見守っているようである

雁木プロムナード

緩やかな曲線のキャノピーは、独立型の雁木をイメージしている

診療室

トップサイドライトから、自然光を十分に取り入れている

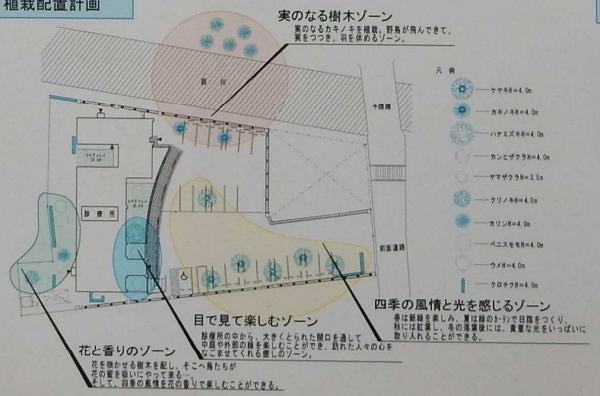
廊下

ユニバーサルデザインに配慮し、車椅子でも楽に通ることができる

多目的室

中庭に開放された明るい空間になっている

植栽配置計画



植栽計画

四季の風情と光を感じるゾーン

ケヤキとクロチク

実のなる樹木ゾーン

カキノキ

花と香りのゾーン

ウメ・ベニスモモ・カリン・クロチク

目で見て楽しむゾーン

ハナミズキ

建築概要

一般事項

名称	和田内科医院　新築工事
所在地	新潟県西蒲原郡西川町大字曽根22番地
階数	地上１階
主要用途	診療所（内科）

面積

敷地面積	１８４８．５３㎡（５５９．１８坪）
建築面積	３９７．６７㎡（１２０．２９坪）
延床面積	３５１．９５㎡（１０６．４６坪）

構造

基礎	布基礎
軸組	鉄骨造
屋根	高圧セラミック瓦葺き、ガルバリュウム鋼板(了)0.4 アルミパネル(了)2.0
外壁	押出し成形セメント板(了)15、防火サイディング(了)12 杉小巾板(了)9、アルミパネル(了)2.0

緑のコンセプト

この診療所は雁木が残る街の川のほとりに位置し、周りには住宅の他、畑や緑も多くある。
そこで、単に緑の量を多くするのではなく、その質に重点を置くことを提案した。ここで言う『緑の質』とは、従来型の樹木を植えて、『見て・楽しむ』と同時に、緑にいくつかの付加価値を持たせようというものである。
それぞれの樹木の特徴を生かして、「実のなる樹木ゾーン」・「四季の風情と光を感じるゾーン」・「目で見て楽しむゾーン」・「花と香りのゾーン」という４つのゾーンに分類した。そして、そこへ野鳥が飛んで来て、羽を休め、木々の実を食べ、花の蜜を吸う…。
『野鳥が住める環境＝人々にとっても良い環境』というコンセプトのもとで、植栽計画を行った。